

日本洋書協会会報

BULLETIN OF JAPAN ASSOCIATION
OF INTERNATIONAL PUBLICATIONS

目次

東京国際ブックフェア	1
うちの会社	2
理事会報告・委員会報告	3
海外ニュース	4
出版文化史道達(55) 洋書の歴史雑記帳(X)	5
雪国への旅	6



2001年は「日本におけるイタリア年」で、さまざまな分野にわたる多彩な催し物が全国規模で繰り広げられていますが、その一環として「イタリアパビリオン」が会場内に設置され、イタリアの歴史・芸術・文化を取り扱った日本語、イタリア語の書籍が大々的に展示紹介されました。イタリアの有名作家12人を迎えての交歓会や「マルコ・ポーロ賞」(日本語で書かれたイタリアに関する優れた作品に授与される賞)や「ビーコ・デッラ・ミランド賞」(イタリア作品の優れた日本語への翻訳賞)の授賞式が行なわれるなど、イタリアパビリオンは終

東京国際ブックフェア

= 日本におけるイタリア 2001 年と洋書バーゲン =



21世紀の幕開けを飾る東京国際ブックフェア2001が、4月19日から23日まで有明の東京ビッグサイトで開催されました。国内の出版社、アジア各国、アメリカ、イタリアなど世界25カ国・地域から企業・出版関係者が参加し、総参加者数も昨年を大幅に上回る48,581名と会場内は連日賑わいを見せました。

取り分け今回は出展社が来場業者との商取引を行なう、ビジネスフェアとしての側面が強化され、各ブースでは会場だけの特別仕入条件、人気商品の事前予約などブックフェアならではの商談も活発に行われておりました。

もちろん一般来場者から大好評の「特別割引セール(20～30%引き)」は、各出展社で見受けられ、特価商品を紙袋一杯に買い込んだ一般来場者も多かったようです。

又会場には「著作権取引センター」も設置され、国際ブックフェアの特色である地域や言葉を超えての版權売買や国際共同出版の商談も盛んに行なわれておりました。

日国際ブックフェアならではの華やかさと賑わいが見られました。日本洋書協会は昨年の「オランダパビリオン」に引き続き、今回の「イタリアパビリオン」でも開催協力を行ないました。





さて、例年大好評で東京国際ブックフェアの目玉となっている、日本洋書協会主催の「洋書バーゲンコーナー」には、会員14社が参

加し初日から売上記録を更新、4日間連続での売上も前年比約30%増と過去最高の売行きで、終盤2日間はワゴンの上が寂しくなる業者が続出。各社とも洋書の売行き不振や活字離れを吹き飛ばそうと、売れ筋商品を取り揃え、大奮発の価格付けを行なった事と、この日が来るのを待ち構えていた常連客など大挙押しかけて来た事が、売行き好調の理由でした。



領収書発行の際カタカナ名前(コンピュータ関連?)のお客様が多かったのも、時代の流れでしょうか?会場を見回すとアドビやIBMなどデジタル関連の大小出版社が本当によく目に付き、電子出版物、デジタルソリューション関連の公開セミナーも大盛況。これからの本屋さんの世界はどのように変わっていくのだろうか、と考えさせられる事の多い「東京国際ブックフェア」でもありました。

(丸善(株)・和田記)

うちの会社

ブックマン株式会社

大阪府大阪市北区豊崎3-1-18 淀川ビル
Tel : 06-6371-4164 Fax : 06-6371-4174
URL : <http://www.bookmans.co.jp/>
E-mail : bookman@osk33web.ne.jp

昭和42年、デザイン関係出版物の専門輸入業者として創業しました。ときあたかも東京ですでに“日宣美(日本宣伝美術会)”が結成されており、わが国に商業デザインの花が絢爛と咲きほこってありました時期で、大阪を拠点として関西一円に、平面及び立体デザイン、建築、美術等の分野の出版物を幅広く輸入販売し、“デザインのブックマン”の名声を得て今日にいたっております。企業の人気はおおげさに云えば広告力によって左右されるとマスメディアを通じてみえてくるようです。“始めに形ありき”で“モノ”には必ず形あり、形あれば、そこに

デザインは必須のものとなります。

デザイン文化は、広告文化のコアであり、広告文化は経済発展に不可欠の刺激剤であるとの信念のもと、デザイン文化の向上のため、裏方としていささかでも社会に貢献できたのではないかと自負しております。

21世紀は、ますますVISUAL化の時代となることでしょう。デザイン業界の住人として、今後いっそう社業に邁進する所存です。業界諸賢の御指導をよろしくお願いします。

中村光伸

理事会報告

4月20日(水)

1. 2001年度定時総会に上程する以下の議案を承認した。

(1) 2000年度決算報告

(2) 2001年度予算案

2. 選挙管理委員会の報告を了承した。

(1) 5月14日(月)事務局終業時を以て投票を締め切る。

(2) 5月15日(火)午前10時より開票・集計作業を行う。

(3) 開票結果は総会において決算報告採決後、選挙管理委員長が発表する。

3. 事務局が設定した総会議事進行予定を了承した。

4. 以下の二会員の退会届を受理した。

・(株)研優社(3月31日付/1976年入会)

・(株)欧明社(4月30日付/1949年入会)

5. 4月19日開会の東京国際ブックフェアにおける「洋書バーゲン」および「イタリアパビリオン」の開催状況について事務局長より報告があった。

以上

委員会報告 <広報・渉外委員会>

4月19日(木)~22日(日)、東京ビッグサイトで開催された「東京国際ブックフェア2001」の初日に、今年度当委員会最初の活動として、協会パンフレットとダイレクトリー2000の配布を行いました。(株)絵本の家、小松崎敬子副委員長と丸善(株)、藤村裕二委員の協力で、当協会が主催する洋書バーゲンコーナー前に午前10時に集合して、主に海外からの出展出版社、出版協会に重点を置いて配布しました。また、昨年フランクフルト・ブックフェアで配布をしていただいた出版文化国際交流会のブースにも置いていただき、今

回も各方面に配布がされました。さらにイタリアパビリオンを担当された高橋事務局長を通じてイタリア出展83社にパンフとダイレクトリーが届くよう便宜を図っていただきました。また、ブックフェアに出展されていた日本出版貿易(株)と日本洋書販売配給(株)のブースにもパンフを置いていただきました。この場をお借りしてご協力に感謝いたします。結果として、パンフ・約500部、ダイレクトリー・120部を配布し、協会の広報活動に努めました。

〔委員長・清水弘文記〕

日本洋書協会ダイレクトリー 2001

< JAIP DIRECTORY >

25.7 × 18.2cm 本体70ページ

会員価格2,500円(送料共)

一般会員4,500円(送料共)

海外価格8,000円(航空便送料共)

追加注文只今承り中！



◆美術書店の老舗リゾーリの店舗閉鎖

美術書店の専門書店リゾーリ(全米12店舗、ワシントンのAIAブックストアを経営)は、ニューヨーク57丁目の旗艦店を除くすべての店舗を閉鎖することになった。先週のサンタモニカ店閉鎖に続き、ニューヨーク、ソーホー店を5月20日に、カリフォルニア州バサデナ店を6月30日に、それぞれ閉鎖する予定。今後、シカゴ、ボストン、ウィリアムスバーグ、フィラデルフィア、そしてニューヨークのワールド・フィナンシャル・センター内の店舗が閉鎖される予定。今年のクリスマス時期には4店舗を残すのみとなるとのこと。

リゾーリの店舗はいずれも繁華な商業地域に位置し、重厚で美しいインテリアで知られる。美術品やギフト売場を備えた店舗やコーヒー・ショップを併設した店舗もある。今回の閉鎖は、親会社であるイタリアのRCSリゾーリによる決定で、今後は出版業務に注力すること。同社は、大規模なスーパー書店チェーンが出店ラッシュを繰りひろげた1990年代に、全米に多数の店舗を開店した。

PW DAILY / MAY 7, 2001

「フォーティ・ラブ」春合宿(4月)

2001年度の第一回目の春合宿は、秩父のミューズパークに15名の参加を得、盛大に催された。例年の春合宿は津久井湖のプチピラが常宿となっていたが、村長<経営者を皆こう呼んでいた>の病氣療養により閉鎖の止むなきにいたったため新天地を求めて、ということにした。秩父の連山は、まだ山桜がピンクを絵の具のように残して置いておいてくれ、遠来の客を楽しませてくれた。遠くは、横浜から家族四人で駆けつけてくれた小橋家(タトル)元いたからだ。

前回の湯河原の合宿から参加の小林さん(CUP)は20代の若さを活かした柔軟なフォームで並いるベテラン勢をなぎ倒していった。聞くところによれば独学でのテニスとかで、皆の羨望の的であった。(上手さと若さに。)しかし、ベテラン勢も老獪さを発揮して、最後はそこそこの勝負に持ちこんでいたようだ。

今夜の泊りは、名幹事の鶴竜次さん(東亜ブック)のアレンジで赤谷温泉の小鹿荘。古風な建物に現代的な装飾のいい感じの宿。おかみが挨拶にきたのも初めてだし、少量ずつの山菜料理と辛口の日本酒に舌鼓を打ったのは言うまでもない。例によって二次会は深夜まで、延々と続いたようだ。(筆者反省す。)

ともかく、朝から深夜までとても楽しい集まりで、一度参加したら病みつきになることはまちがいない。初心者にも優しく教えてくれるベテランも揃っています。是非、次回の箱根の合宿に参加して下さい。お待ちしております。詳細はJ A J P協会報No.081をご覧下さい。

(東光堂書店 柴田記)

お詫びと訂正

この度刊行いたしました2001年版JAIPダイレクトリーに以下の誤りがありましたので、お手数ですがご訂正ください。

・P 13 株式会社ハーコート・ジャパン

ビル名:

(誤) 一番セントラルビル

(正) 一番町セントラルビル

欧文住所:

(誤) 16-5 Hongo 3-chome, Bunkyo-ku,
Tokyo 113-0033

(正) Chibancho Central Bldg. 22-1 Ichibancho,
Chiyoda-ku, Tokyo 102-0082

・P 42 海外新聞普及株式会社

ファックス番号:

(誤) 03-3453-4371

(正) 03-3453-4341

洋書の歴史雑記帳 〕津山藩と洋学の系譜(2) 鈴木陽二

津山藩の洋学(2) 黎明期の蘭学(1)

津山藩洋学の名を高めたのは宇田川玄随であり、後裔にも優れた蘭学者が輩出した。しかし、宇田川一族は決して藩医としての家職に止まったのではなく、蘭学の頂点に位置した学者を多数送りだし、日本の近代科学の発展に大きな役割を果たした。ここでは、まず宇田川玄随を生んだ17世紀～18世紀の蘭学の時代背景を、大ざっぱに眺めて見ることにしよう。

日本の西洋医学は、キリシタン宣教師とオランダ商館の医師によって扶植された。いわゆる紅毛医学の知識の源泉はオランダ商館付医師で、17世紀末から18世紀ごろ特に影響力の大きかった医師として、次の人々を挙げることができる。カスパー・スハンベルヘンは1649～1651の在日で、彼の外科術は教えを受けた日本の医師によって「加須波留流外科」として継承された。在日1690～1692のケンベル(Engelbert Kaempfer)は主としてオランダ通詞に医学を伝授したが、日本研究にも優れた業績を残し、『日本誌』(1777～79刊)を著して西洋に初めて正しい日本の姿を紹介した。1775～1776在日のツェンペリー(Carl Peter Thunberg)はスウェーデンの植物学者リンネの高弟で、在日中の植物採集と研究によって『日本植物誌』(1784刊)を出版し高い評価を受けたが、医学者としては桂川甫周や中川淳庵などに先進医学を伝授した。

一方、蘭方医の業績を見ると、ケンベルと親交して西洋医学を吸収したオランダ通詞本木庄太夫はドイツ人レメリン(Johann Remelin)の『Pinax Microcosmographicus』1667(小宇宙写実板上図)をオランダ語訳から重訳して『阿蘭陀経絡筋脉臟腑図解』を1682(天和2年)に上梓し、日本での最初の翻訳医学書となった。また同じオランダ通詞榎林鎮山は商館医ホフマンからアンブロス・パレのオランダ語訳『外科全書』(1571)を贈られて翻訳し、1703(宝永3年)『紅毛外科宗伝』を著した。パレはルネサンス時代フランスの第一級の医学者であり、この翻訳は日本の医学にとって重要な意味をもつものであった。蘭方医ではないが、山脇東洋が1754(宝暦4年)に日本で初めての腑分け(解剖)を行い、その所見『蔵志』2冊を宝暦9年に刊行した。そして1774(安永3年)に『解体新書』が上梓されるに及んで、蘭方医学がようやく本格的な始動

を示すようになってきた。

『解体新書』はここで改めて解説するのが蛇足とも思えるほど広く知られた解剖学書の翻訳だが、杉田玄白が中心になって、主として前野良沢が翻訳に当たり、中川順庵と桂川甫周が協力して編纂した。原書はクルムス Johan Adam Kulmus の『Anatomische Tabellen』(1732)のオランダ訳『Ontleedkundige Tafelen』(1734)で、俗に「ターヘル・アナトミア」と称した。クルムス(1689 - 1745)はドイツの医学者で、この本は初学者向けの簡単な解剖図譜で、1722年に初版が刊行されオランダ語本はその第3版の訳であった。このころ日本に何冊ぐらい入っていたかわからないが、杉田玄白と前野良沢は共に所持していて『解体新書』翻訳へとつながっていくことになった。その入手の経過は吉村昭『冬の鷹』に語られているが、良沢の場合は、長崎に留学したおり大通詞古雄幸左衛門の紹介でオランダ商館から入手し、玄白は、オランダ商館長一行江戸参府のときオランダ人から譲ってもらったという。いずれも高額のため、良沢は中津藩主の、玄白は小浜藩主の下賜金によって購入した。『冬の鷹』は前野良沢を主人公にして、『解体新書』を産み出していく事情ばかりではなく、この時代の蘭学の世界を委細を尽くして描いた歴史小説で、一読をお勧めしたい。

杉田玄白と前野良沢が『解体新書』の翻訳事業を思い立ったのは、小塚原の刑場で処刑者の腑分け(人体解剖)を見て、臓器の構造が「ターヘル・アナトミア」の図と一致していたことに感銘したのがきっかけであった。現在南千住駅近くの刑死者を弔った回向院には、「観臓記念碑」が掲げられている。小塚原のお仕置場は、南部藩士相馬大作の津軽藩主襲撃事件以降国事犯が中心の刑場となり、境内にはそれらの刑死者の供養塔や墓が多く、その中には安政の大獄で処刑された頼三樹三郎、吉田松陰、橋本左内、大老井伊直弼や老中安藤信正を襲った水戸藩士などの名を見ることができ、幕末動乱史を辿る思いがする。変わったところで、片岡直次郎(直侍)や鼠小僧次郎吉、明治になって最後の首切役人八代目山田浅右衛門によって斬首された妖婦高橋お伝の墓もここにある。〔参考文献：酒井シヅ『日本の医療史』/沼田次郎『洋学』/中西啓『長崎のオランダ医たち』〕 (元丸善・本の図書館長)

教え子の一人が日本海側のある国立大学に赴任しているが、偶然、学会で出会った際に、本務校で講演をしてくれないかと依頼された。出かけたのは2月の中旬の晴れた日だった。本当は草津温泉あたりに今年はまだ一度スキーに行きたいところだった。北に向かってひたすら進む列車の窓から外を見ると、大宮あたりから厚い雪化粧をした富士山が青空を削り取るようにくっきりとその容姿を見せていた。

しばらく富士山を眺めていると車中放送があった。その放送の後に英語の訳が追加される。日本語の分からない外国人へのサービスのつもりだろうが、何年前に録音された同じものを、そのままこのJR路線でも使っているようだ。いつも同じ調子なので聞き飽きた乗客も多いのではないかと思う。英語の放送は女性の声でLadies and gentlemen.から始まる。この語句は呼びかけ(「呼格」(vocative))だから、語尾を少し上げ気味にして親しみを込めて言うのが世界共通の言語的特徴だろうが、なぜか呼びかけられた感じがしない。殺風景な録音室で機械的に吹き込まれたものではないだろうか。

できるだけ炉辺談話風になるようにしていただければ、もっと自然な英語が聞かれるのには私の欲張りだろうか。授業中、音読する際、かつてサンフランシスコ州立大学教授とのべ18時間余りの談話、UCLAで教わったPeter Ladefoged教授宅でボールのそばで4、5人のアメリカの教授たちと数時間話し合った時のことなどを思い出したりすると、学生に聞かせる英語のモデルリーディングに何となく血が通うような感じになる。多くの学生が血が通った生き生きした音読が出来ないのは英語を実際に話す機会や、または英語を通して感動を味わったりする体験があまりないせいで、English Table Talk(ETT)などの機会を与えてやりたいものだ。

上野から朝早く乗った特急あさひ号はしばらくすると、長いトンネルを通過していた。トンネルから抜け出すと、まわりは一面の雪景色だった。列車の騒音も雪に押し込められたかのように静まり、白銀色に輝くあつい絨毯の上を快適に進む。糸魚川あたりから日本海の沿岸に沿って西に進む間、冬の日本海はとても美しく

見えた。沖合いから水平線まで伸びている海面の色は濃い青色だが、海岸に沿った海の色は透き通るような淡い緑色だった。本を読むことを忘れ、海的美しさと青空のもとにひろがる雄大な海原にしばらく見とれていた。

黒部駅にさしかかり何気なく山側の方に目をやると、積もった雪がちょうど霜降り肉のようになった富山連峰が迫っていた。今年の正月にヨーロッパに行った際、車でアルプス越えをしたが、その時に眺めたアルプス連山の美しさと較べて、ここにもそれと優るとも劣らない富山連峰の勇姿が見られてとても嬉しかった。

近くの小高い山は常緑色の松で濃い緑に覆われているが、黒部の山々は近づく春の太陽の光を一面に浴びていたので、薄い青色に煙って見える。かつて山岳部で北海道の山々を登った時のことを思い出して、今年こそは日本アルプスを越えてみようという気持ち湧いてきた。

東富山の駅に列車が止まったとき、海側を見ると大きなゴルフ練習場があった。一般のゴルフ練習場と違っていたのはボールが飛んでくるネットの途中に250、やや高いところに280という大きな数字が張りつけてあることだ。もちろんボールが280の数字の上まで飛んだら、ボールが280ヤード飛んだことになるという意味だろう。

これは日米交渉や会社のプレゼンテーションなどでよく話題になる「数値目標」を設定することと同じではないかと思った。ひたすらボールをたたいても達成目標というものがないと持続力も生まれてこないし、継続して向上に努めようという意欲も減退してしまうのではないかと思う。最近は大学で英語の単位をいくつか取ったとかAの成績がいくつあるとかということよりはむしろ国際的に比較できるTOEFL何点とかTOEIC何点とかが重視されるようだ。また、国内ではいわゆる「英検」が広く実施されて来ており、すでに6000万人が受験し級別の判定がなされたことが報道された。日本人の英語力が国際的に見て低いということがマスコミで報道され、またそのように思い込まれているようだが、統計母体が不確実な場合は統計結果を私は信用しないことにしている。

雪国への旅

島岡 丘

数時間列車に乗っているとさまざまな人たちが乗ったり降りたりする。表情や服装からどんな職業についているのかを想像してみるのも楽しいものだ。一人一人に与えられた時間は限りがあり、こうして電車に乗っているときも何か有意義なことをしてすごしたいものだ、と思っても部屋の暖かさと規則的な揺れのせいで、うとうとと居眠りしてしまうのは私だけではなさそう。

外国人が乗ってくることも多くなったようだ。その人たちと英語で話して見ようと思っても学生時代に学習したことがすぐことばに出てこないことが多い。なぜだろうか。それは、不慣れのこともあるが、一般には、英語の不規則な綴り字がまず頭に浮かんできて、実際の音声と合致していないことではないかと思う。英語の学習には日本人に合った英語学習法があつてしかるべきである。ゴルフに数値目標を設定しているのと同じように、英語の発音に数値目標を設定してはどうかと思う。今から6年前に37人の発起人と共に、「英語発音表記学会」を阿武隈山脈の南斜面に広がる茨城キリスト教大学のキャンパスで発足したが、ようやくその価値が認められつつあるのは喜ばしい。発音ワークショップは日本各地で開かれている。日本人の文字に対する視覚識別・判断力は世界でも一流ではないかと指摘する人もいるので、視覚を活用して、英語の発音熟達度の向上を判定するようにしてはどうかと思う(拙著『目から覚えるスラスラ英語』小学館ほか)。10段階でそれぞれ10項目、合計100項目の数値目標を設定し、自己採点または客観的な採点をするのである。第一段階は自然な挨拶10種、第2、3段階はリズムと強勢、4、5段階は母音と子音、6、7段階は語間の自然なつながりとcloud, crowdなどの子音連結、8、9段階は同化や弱化による変化を扱い、最後の10段階ではコミュニケーションの効果を測定する問題を予め用意しておく。5段階を終えた人はlとrの区別が出来る人、語中でfromをfm「フム」のように言える人は80点以上というふうになれば英語の発声表現を重視する会社の採用試験にもよい目安になると思う。

それと平行して「近似カナ表示」を使うことによって、自信をもって英語の発音ができ、安心して新しい文章をたとえ未習語があっても音読できるプログラムをつくる必要がある。またその発音がいわば外国のアウトバーン(高速道路)を走れない場合、どうすれば事

故を起こすことなく走れるようになるかをチェックするいわゆる「処方箋」のようなものがあれば、もっと能率的な英語の習得が行われるのではないかと思っている。

そんなことを考えているうちに目的地に着いた。私は講演ではそのような話をしたところ、小学生も英語の文に勝手にカナをつけるので、学会などで研究された「近似カナ表記」を使って小学校の英語教育を効率的に進められるのではないかと、とか、lとrの区別がカナで区別するのに語頭ではそれぞれ、「ヌル」、「ウル」で表し、語末のlは「ウ」を使って、例えば、「メウク」のように発音すればmilkと通じるというのは「目から鱗」だったとかなど、好意的な質問やコメントが出された。英語発音表記学会で提唱することになっている予定のfの表記を「フ」とし、vと「ヴ」に対応させるという考え方も大方の賛成が得られたようだ。

しかし、日本語と英語とは音声体系は全く別物でカタカナを排除することが先決であるという意見も根強いものがあることも感じ取った。一般に21世紀になって何か新しい試みをするをを一見歓迎するかのように見えるが、実際は変化をなるべく避けようとする保守的傾向も依然として存在する。

英語をマスターするには、実際に使う機会が少ない英語学習者は自信がつくまで自分の納得する発音で音読するのが一番よい方法であると私の体験から言える。しかしそれには新語句を発音記号を見れば発音できるという安心感がなければならない。中国で使われているテキストを見せてもらったことがあったが、それには1年の第1課から第8課まですべて発音記号の習熟に費やされていた。日本の英語のテキストには、発音記号や近似カナ表記が不規則な英語を読むときに必要であるという思想が埋没してしまっているようで、この事態に対処するにはテキスト以外に「発音記号+近似カナ表記」のリストを別に与えることが不可欠ではないかと思った。

(茨城キリスト教大学教授)

The Cochrane Library

このCD-ROM (The Cochrane Library) は、コクラン共同計画の主たるアウトカムであり、エビデンスに基づく医療 (evidence-based medicine) の情報インフラストラクチャーとなるものである。

コクラン共同計画は1992年にイギリスでスタートした医療技術評価の世界的プロジェクトであり、1,400件を越すレビューが完成または進行している。医学のあらゆる分野のシステマティック・レビュー、すなわち、ランダム化比較試験 (RCT) を世界中から収集し、質評価とメタアナリシスを行い、3ヵ月ごとに更新して届けるというものである。また、現在、世界に15ヵ所のコクランセンターがある。それらの仕事をまとめたものが「The Cochrane Library」である。3ヵ月ごとに最新版が発行され、最新の情報が届けられる。このライブラリーには以下のデータベースが含まれる。1) CDSR: コクラン共同計画による各トピックごとのレビュー (メタアナリシスのグラフなど)、2) CENTRAL: 世界中のRCTのリスト (MEDLINEなどの中のRCTを含む)、3) 他の研究者やグループによるレビューのリストとアブストラクト、などである。

このCD-ROMによってコクラン共同計画の全体像が把握でき、また最新のエビデンス (科学的根拠) に基づく医療が可能となる。

年4回アップデート。



●年間購読価 (税別)

CD-ROM <Windows>

¥ 36,000 (個人)

¥ 52,000 (団体)

Internet <Windows>

¥ 40,000 (個人)

¥ 70,000 (団体・Single user)

(その他のネットワークライセンス価格、インターネットFree Trialにつきましては南江堂洋書部までお問い合わせください)

Best Evidence 5

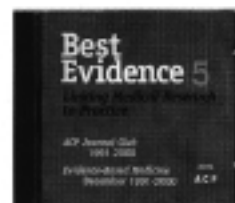
Linking Medical Research to Practice

2001

ACP Journal Club 1991-2000の10年分と Evidence-Based Medicine (1995-2000) の6年分を収録。今回からDiagnostic Strategies for Common Medical Problems, 2nd ed.を追加収録。

臨床上的のいろいろな問題点を解決するための基礎的情報や、最善の臨床処置決定に必要なエビデンス (科学的根拠) を提供する。

*Windows & Mac



●年間購読価 (税別)

¥ 25,000 (個人)

¥ 36,000 (団体)

¥ 68,000 (2-5 Network license)

¥102,000 (6-10 Network license)

★価格・内容は予告なく変更される場合があります。価格に消費税は含まれておりません。

BMJ

nkdp

日本総代理店 (株) 南江堂洋書部
〒113-8410 東京都文京区本郷 3-42-6 ☎(03) 3811-9957
E-mail: nkdyosho@nankodo.co.jp